

令和4年4月 市長定例記者会見

令和4年4月1日(金)

午後1時30分開始

【秘書広報課長補佐】 それでは、ただ今より令和4年4月市長定例記者会見を始めさせていただきます。

本日の会見の進行につきましては、お手元の次第のとおり、最初に市長の挨拶、その後、事業発表をいたします。質問につきましては事業発表についてからお願いしたいと思います。事業発表に係る質疑応答終了の後に、次第の3番目、フリーの質疑応答へと移らせていただきますので、よろしくお願いいたします。

なお、ご質問の際は、お手数ですが、まず挙手をお願いいたします。そして、ご自席のマイクのスイッチを入れていただきまして、ご質問の後はお切りいただきますようお願い申し上げます。

終了は14時30分を予定しております。ご協力のほどよろしくお願いいたします。

それでは、市長、よろしくお願いいたします。

【市長】 人事も一新しまして、新しい体制となります。どうぞよろしくお願いいたします。

今回の人事異動につきましては、デジタル技術を活用して市民生活をよりよいものへと変換するデジタル・トランスフォーメーションの推進に向けた体制の整備と公共施設をはじめとした全庁的な公有財産、土地も含めたマネジメント推進を図る専門部署の整備を中心に組織改正を行わせていただきました。

また、本日、22名、病院も入れますと67名の職員を迎え、新たな体制の下、しっかりと市政を進めてまいりたいと考えております。

新型コロナウイルスワクチンの3回目接種ということで、18歳以上を対象としていましたが、新たに12歳以上の方も対象となりましたので、本日、接種券を対象者約2,500名に送付いたします。

新スマート物流ですが、ドローンとデジタル技術を活用して地域の課題解決を目指すため、敦賀市と北海道の上士幌町、東川町、山梨県の小菅村、それから茨城県の境町の4町村と新スマート物流シンポジウム推進に向けた自治体広域連携協定を締結しております。

本市といたしましては、先進的な取り組みをする自治体と連携することで、各市町村が取り組む実証実験事例や独自の経験などノウハウを共有し、新スマート物流の早期実現を目指してまいりたいと考えております。

最近のトピックスとしますと、ポーランドへの支援ということで、ウクライナ避難民に対する支援金をポーランド大使館で贈呈することができました。このお金は、福田会さんがポーランドで展開している事業と避難民に対する食料や医薬品、衛生用品等の購入に充てられると伺っております。

それからもう一つは、金ヶ崎に宿泊機能付きレストランが整備されるということで、前田建設工業とアクアイグニスという2社と連携協定を結びまして、2024年、営業開始を目標に進めるということでこれから進めてまいりたいと考えております。

新幹線開業まで2年を切りましたので、1年ちょっとという話になってくると思います。しっかりと前に進めるようにやっていきたいと思っていますので、よろしくをお願いします。

【秘書広報課長補佐】 続きまして、事業発表をお願いいたします。

【市長】 事業発表につきましては、発表項目は1項目でございます。

国道8号敦賀市曙町から白銀町の区間における歩行者利便増進道路（通称：ほこみち）の指定についてでございます。

本日付で令和2年10月に完了しました国道8号敦賀空間再整備事業により、新たに生み出されました歩行空間を中心とする区間が近畿地方整備局管内の直轄国道で初めて歩行者利便増進道路（通称：ほこみち）に指定されております。

これにより、テーブルやベンチ、キッチンカーといった物件の占用がより柔軟に認められるようになりました。

また、本市といたしましては、ほこみち制度を活用し、より使いやすく、にぎわいのある空間を目指して、第2土曜日を中心とした地元商店街など市民によるにぎわいづくりを支援するとともに、地域活性化に資する道路の魅力的な活用を図ってまいります。

発表項目は以上1項目です。

【秘書広報課長補佐】 それでは、ただ今発表いたしました項目につきましてご質問をお受けしたいと思います。最初に幹事社さんのほうからお願いいたします。

【記者】 ほこみち制度なんですけれども、今市長おっしゃられたように、特に氣比神宮前のかぐーる前の交差点は、第2土曜日、日曜日とか出店されるようになってきていると思いますけれども、今後、このほこみち指定を受けて実際に使ってもらうために、今後どのような誘導というか、そういったものを行って活性を図りたいと思われているかを教えてください。

【都市整備部長】 都市整備部でございます。

ほこみち制度がこの4月1日に認定されまして、かぐーる前等々は大分定着してきているところではあるんですけれども、それ以外のところも含めてどのように活性化、活用策をといるところの質問につきましては、市役所全体でそういった他部署等々で中心市街地賑わいまちづくり支援事業、港都つるがが発注して担当している事業であったり、また市民協働課のほうで担当している市民協働事業補助金等々がございますので、そういった部局横断的な格好でこの道を使いたい、ここで演奏したいというような人がいましたら、そういった補助制度も活用して広く展開していきたいと考えているところでございます。

また、その地元町等々の調整につきましても積極的に市が間に入って調整することによってうまく活用が図れればと考えているところでございます。

以上です。

【記者】 では、細かいところはまた担当課に後ほど聞かせていただくとして、市長としてはこれまでもにぎわいづくりについて2年間続けて取り組みされてきましたけれども、本年度など国8のにぎわいづくりについて、どのようなものを考えておられますでしょうか。

そして、新幹線開業の頃にはどのようなイメージというか、どのようなところになっているようにしたいなと思われていますでしょうか。

【市長】 ありがとうございます。

ほこみちの指定をしていただきましたので、今まで以上に何かしようと思ったときにすぐできるのかなということを思っています。それによって、今、毎月第2土曜日になっていますが、それ以外にも毎週土日でも皆さんが使っていただければいいなというふうに思っています。

その中で、今、コロナ禍ですので、大きなイベントはなかなかやりにくい中で、そうやって少しずつ自然発生的にいろんな事業をやっていっていただけるのは非常にありがたいです。それにも関連した補助金を使いながら支援できたらなと思っています。

もう一つは、大きな流れの中で、福井国体から始まっているんですけども、店で売らんじゃなくて、外に出て物を売ると結構売れるよという取り組みをしています。その中でケータリングなどでほこみちを利用したりとかいう形に皆さんの動きになってきたので非常にうれしいなと思っていますが、その人たちが今度もう少しにぎわいが出てきて、新幹線が来たときには、商店街に入ろうかなというところまで来るとすごくうれしいなと思っています。そこまでのにぎわいにつながるかどうかというのは今後の私どもも含めた努力の中でやっていくものだと思っています。

【記者】 ありがとうございます。

言わば今のシャッター商店街というか、そういったところのにぎわい創出にもつながればいいなというようなイメージでしょうか。

【市長】 そうです。空き店舗のところになんか少しずつお店が入っていくような形になればいいなと思っています。

【秘書広報課長補佐】 ほかによろしいですか。

それでは、各社にお伺いいたします。発表項目につきましてご質問ございましたら、挙手のほうお願いいたします。

【記者】 今の他社の質問とちょっと重なるところもあるんですけども、このほこみち指定を通して、今後のにぎわいづくりと新幹線開業も控えてますが、敦賀市のまちづくりに対してどういうふうになったらいいなという、その辺りの理想というんですか、その辺りお伺いしたいなと思うんですが。

【市長】 一つは、動線という意味では新幹線の駅から西口に出てきて、商店街を通っていただいて、氣比神宮、また金ヶ崎のほうに歩いていただきたいということを思っています。

そこまで歩いてくださるかどうかわかりませんので、バス路線を、ぐるっと周遊バスを変えまして、30分で行って帰ってくれるようにしましたので片道だけでも歩いてくださればというのが思いとしてあります。

その中で、イベントをやっていたりとか、ケータリングやっていたりとか、そういうところで流れができてくるとうれしいなと思っています。

歩いているうちに、ああ、こんなこともあるんだとか、こういう場所もあるんだということを感じていただければと思いますし、将来的にはそこを歩いていただいたり、また氣比神宮から前の神楽商店街、あの辺にもにぎわいが出て、そこからこっちへ逆に歩いてきたりとか、たくさん人があふれるような形にしていきたいと思っています。頑張ります。

【秘書広報課長補佐】 ほかにいかがでしょうか。発表項目はありますか、よろしいでしょうか。

それでは、次第の3番目に移ります。フリーの質疑応答へと移らせていただきたいと思います。

幹事社さんのほうからどうぞ。

【記者】 先程ありましたこのほこみちもそうですけれども、今年の秋には「otta」だったりとか「ちえなみき」とか、新幹線開業に向けて様々なところで準備が進められていくと思います。

今年、この1年、新幹線開業に向けて、どういった年にしたいかという位置づけを市長の中の考えを教えてください。

【市長】 新幹線開業1年遅れたわけなんですけれども、1年遅れたのをマイナスと捉えずに、余裕があって準備ができる期間というふうに考えられたなと思っています。

今まで敦賀としますと、新幹線で来て、敦賀で何とか降りていただかなければならないと。乗換えでなく降りていただかなくてはいけないと。そのために敦賀の魅力を発信したり、敦賀真鯛とか東浦みかんとか、食べ物をブランド化したりをしてきましたけれども、これからは敦賀だけでなく周りの市町と連携して、広域的なつながりを持つべきだと思います。敦賀に降りた人が、敦賀だけでなく、周りを見て、もう少しいたかったなど。では次の機会とか、季節が違ったタイミングでまた来ようと、リピーターを増やすような工夫というのもこれから考えていかななくてはいけないと思っています。

【記者】 ありがとうございます。

そうしましたら、また違う質問なんですけれども、先ほど少しお話ししてましたウクライナ支援のところに関してお話を伺いたいですけれども。

福井県内の市町の中で最初に支援の表明ということで市営住宅を提供というような動きを見せたりされていると思うんですけれども、改めて敦賀市のウクライナ支援の役割として、できる部分を市長はどのようにお考えになっているか、教えてください。

【市長】 敦賀市は、人道の港ってということで優しい日本人がいた場所ということを発信しておりますけれども、議会からもそういう支援はできないのかというご意見も出ました。私どもはウクライナとは直接はつながりは持てないんですけれども、たくさんの人たちが逃げ込んでいるというポーランドとは人道の港のポーランド孤児の関係でつながりがあります。

ポーランドでは、国民が自分の家を開放して避難民の方を10人とか、そういうレベルで受け入れているということを知りましたので、それに対して何かお手伝いできないかなということでもさせていただきました。

ポーランド大使館の大使も快く受け入れてくれましたし、向こうで活動されています福田会の方ももともと私どもとつながりがありますので、そういう意味ではよかったというふうに思っています。

【記者】 ありがとうございます。

以上です。

【秘書広報課長補佐】 ほかに幹事さん、よろしいでしょうか。

【記者】 4項目ちょっと考えてますので、細かく1個ずつ伺わせていただきます。

まず、9日からリラ・ポートを再開されますけれども、そのリラ・ポートへの期待と指定管理者に望むことについてお願いいたします。

【市長】 リラ・ポートにつきましては、本日プレオープンをして、それから9日にオープンを予定しています。

もともと市民の健康増進、そしてまた本市の観光振興に寄与する重要な施設でありますので、たくさんの方がリラックスしたり、楽しめるような仕掛けというか、満足度を向上していただけるように指定管理者にしっかりと運営していただきたいと思っています。

【記者】 2年間の中断というのがあったわけですがけれども、待ってた市民の方もいると思いますがいかがですか。

【市長】 職員に話を聞きますと、自分の周りの市民の方からオープンしてよかったと言う声を聞きますので、本当に市民の皆様にとっては待ち遠しかったと思います。しっかりと満足のいく施設にしていきたいと思っています。

【記者】 続きまして、先立ってありました共創会議についてお伺いしたいんですけれども。

まず、全体的な、あのときのあの場でも市長は一定の評価をされる発言をされたと思いますけれども、全体的な将来像についての評価についてお伺いしたいと思います。

【市長】 詳細じゃなくて全体的な話になりますけど、将来像の案につきましては、昨年来から私どもが求めていた取り組みというのをたくさん取り入れていただいております。ですから、敦賀市とすると非常にたくさん入れていただいたなと感じています。

それともう一つは、工程表が入りましたので、より具体的な可能性というか、具現化してきたんじゃないかなと期待感も高く持っております。

【記者】 その中で今後の進め方についてなんですけれども、今後どのようにこの会議進められていって、具体化してきたものを実際の形にするというようなところの今後の進め方みたいなところを立地としての要望的なものはありますでしょうか。

【市長】 いろんなことにどうしても動いていただかなくちゃいけないんですけれども、私どもがしてもらって待っているのはできないと思うんです。といいますのは、一緒にやっついていかないとうまくいかないだろうというのがたくさんあります。

資源エネルギー庁とかに任せるだけではなくて、私どもも積極的に関わり合いながら、具現化していくということが必要だと思っています。

【記者】 この項目で最後なんですけれども、何かと注目を集めている原子力発電由来の水素製造についてなんですけれども、その期待感とか、どのような効果を狙うというところ、そして、例えば具体的に新年度こんなことから着手するよというようなことが言える範囲であればお願いいたします。

【市長】 ずっと原子力由来のという話はしていましたけれども、やりましょうということまで来なかったわけなんですけど、やっと大きな会議の中でやろうという方向性だけは出てきました。ただ、文面的には高性能な大規模水素製造実証プラントということで、期待感はすごく大きいんです。でも、どういうスケールなのかっていうことと、いつ頃までにとということ、そういう数値に落とし込むのはまだできてませんので、今期待しているとは言いえない状況です。

【記者】 では、3項目目なんですけれども、先ほどの市長の挨拶の中にもありましたが、前田建設とアクアイグニスとの協定について、何年前だったか、2年ぐらい前の転車台のストップを経て、金ヶ崎整備が大きく動き出すことになったと思います。

さらには、昨年、部局横断チームをつくりやってきた成果が出たのかなと思うんですけども、2024年の完成時期なんですけど、具体的に例えば春とかシーズ的なものとかまでは言えないんですかね。

【副市長】 先日協定を結んだばかりでございまして、今後、デザイン計画の中でどういったものをどういった配置にしていくかということを決めていくものです。

それで、我々としては新幹線開業というのが一つの目標ではございますけれども、その開業の年中には何とか形になるものがないかなということで、今後、協議あるいはデザイン計画をつくっていききたいなというふうに思っております。

【記者】 ありがとうございます。

これまでお話の中によくムゼウムの向かいの場所に飲食・物販棟をとかという話があったと思いますけれども、その辺とオーベルジュとの関係というか、その辺はどうなるのでしょうか。

【副市長】 そのオーベルジュは民間事業者の方に設置していただきたいなというふうに考えておりますが、その飲食・物販施設も含めましてレイアウト等、これについても今後協議していくことになるかと思えます。

いずれにいたしましても、氣比神宮の周辺から金ヶ崎、全体としてどういったデザインにするのが一番にぎわいに貢献するか、あるいはお客様に来ていただけるか、そういったことを時間短いですけど、スピード感持って協議をさせていただきたいなというふうに考えています。

【記者】 では、今のご説明からしますと、だからムゼウム向かいというところも一旦置いておいて、全体を含めてどこどこにオーベルジュ、どこどこに飲食・物販棟みたいな、その辺も含めた計画を今回やるということですね。

【副市長】 そういうふうにつくっていききたいなというふうに思っています。

【記者】 分かりました。

これは県に聞くべきことなのかもしれませんけれども、転車台活用とかS L構想、現在、県との協議の進捗状況とか今後の見込みなどはどのようになりそうですか。

【副市長】 にぎわい施設ということで、以前は圧縮空気のS Lを330m走らせる中で、転車台も活用しようという計画になっておりましたが、採算性、そういった面も含めますとなかなか難しいんじゃないかということで、今、ムゼウム前にある転車台につきましてはなかなか活用が難しいとは思いますが、まるっきり排除するというのではなくて、そういうものもあるというのも踏まえながら計画つくっていききたいなと。

ただ、転車台はなかなか難しいかなと。大きいものですから復元しますと結構場所も取ると。

そういった中で、活用方法があるのかどうかということも含めて検討していききたいなと思っております。

【記者】 分かりました。ありがとうございます。

最後に、大きな項目としてふるさと納税についてお伺いしたいと思うんですけども。

今回の見込みが77億円の見込みになっています。決算上はどうなったのかはちょっとまた伺わせてもらいますけれども。

これまでやっぱり去年も今年も何でこのように大きくなったんですかって伺ったとき

に、やっぱりエビ、カニなどの海産品の需要が人気も高いですよとか、巣籠もり需要が高まっているというようなことのご説明を受けてきたと思うんですけども、ほかに何て言うんでしょう、とはいえすごい伸びなので、この辺の分析というのはどのようなところがあるかなというところが分かれば教えてもらいたいです。

【市長】 金額は後で言うと思いますけれども、私どものポータルサイトが楽天にお願いしたというところで、そこが生鮮食品に強いサイトであったということで伸びているんだと思っています。

もう一つは、返礼事業者の対応がすごく早いと。ですから、注文したらすぐ来るとか、それがレビューに上がってきて、あそこは評判がいいなど。もう一つは、マスコミでも取り上げていただいて、皆さんの注目を浴びたというところが大きいんだと思っております。

【企画政策部長】 先ほどの決算はということでございましたけれども、決算まだ昨日で締めてますんで、はっきりした数字は出ておりません。先ほど言いました77億を超えるぐらいかなというところでございます。

【記者】 それ、大きくなったことによってすごい波及効果があると思っていて、今おっしゃったような返礼品事業者の一つである伝食さんが産業団地に進出したりとか、実際にふるさと納税として使える4割以外にも敦賀市内に落ちるお金というか、そういったものが大きいと思います。地元事業者の実質的な売上げが大きくなるという意味で。

そういったような税収以外の波及効果というのをどのように見ておられますでしょうか。

【市長】 産業団地にも事業者さん出てきていただけますので、完成すると40人の雇用ということになります。本社機能が敦賀市にあれば当然売上げの法人税等が入ってきますので、別の意味でも経済効果は高いと思っています。

もう一つは、ふるさと納税を返さなくてもその商品が有名になることで引き合いがあって売れているというところもあると伺っていますので、企業にとっても相乗効果があって売上げが伸びているんだと思っております。そういう意味では大きな経済効果につながっていると思っています。

【記者】 私から最後なんですけれども、今後の課題というところでお聞きしたいんですけども、今回、特別交付税減額ということになりました。別の市では訴訟になったりもしていますし、このような減額になってしまうという課題。

そしてもう一点は、今後、ふるさと納税って全然見込みが読めないものかなと思いますんで、これが頭打ちになったり下がってきたとき、そういった場合の影響というのはどのようなものがあると考えておられますか。

【市長】 ふるさと納税がたくさんになって目立ったのかなという気持ちはありますけれども、その中で特別交付税が減らされた、調整されたということに対してはいろんな担当や事業者の方頑張って工夫を凝らしてきたのに非常に残念だなという気持ちはあります。

一生懸命頑張ったところにたくさんのお金が回ってくるという仕掛けを一方で否定してしまうことになりますので、何とかしていただきたいという気持ちは持っているところです。

ただ、特別何かそれに対して抗議をしようとかいうところはないんです。

それから、将来的に頭打ちになった場合どうかというお話ですけども、敦賀市の場合

は3月31日で締めまして、そのお金は翌々年度、ですから今年度じゃなくて来年度に使う予定でプールします。ですから、その間に第7次総合計画に当てはめる事業として前倒しができるものが何かとか、また寄附者の皆さんの趣旨に沿うものは何かということを模索しながら1年間当てはめていきますので、頭打ちになってもそれだけ大変なことにはならないと思っています。

あともう一つは、寄附者の意向に沿った形で教育・保育施設とか、要はふるさと基金から子育て等福祉基金という基金へ積み立てもしていますので、例えば給食センターの積立金に回すとか、平準化ができていると思っています。短い期間でふるさと納税がもし頭打ちになっても、それは耐えていけると。むしろ、プラスがあった年があったと評価できるんだと考えています。

【記者】 ありがとうございます。

私からは以上です。

【秘書広報課長補佐】 それでは、各社にお伺いいたします。ご質問ございましたら挙手でお願いいたします。

【記者】 県内ではウクライナ避難民の具体的な動きも出ているようですが、敦賀市では、ウクライナ避難民の具体的な動きございますか、現時点で。あれば教えてください。

【市長】 今のところ、具体的な動きはないです。ですから、誰々さんがどこどこまで来ますとか、今情報として持っていません。

【記者】 ありがとうございます。

【秘書広報課長補佐】 ほかはよろしいでしょうか。

【記者】 新幹線の話に戻って恐縮なんですけれども、新幹線が敦賀開業して、その後、延伸する期間というのは、早くても2046年ぐらいの話になりますので、その間、敦賀がずっと終着駅になるということなんですけれども。市長の考えるその終着駅効果というものに関して、どのようにお考えかというのを教えていただきたいんですけれども。

【市長】 規模的にどのぐらいかと言われるとちょっと難しいんですが、終着駅効果はしっかりあると思っています。ですから、金沢が開業した年から敦賀に来るお客さんというのは、観光客、大体2割ぐらい増えたんじゃないかなと思っていますし、宿泊施設も結構満室になっているという状況が続いておりますので、広域にわたって結構終着駅効果はあるんだろうと思っています。

その中で、敦賀に来ていただいて、どうやって乗換えをせずに降りてもらおうかということがテーマになっていますので、それに対して今、人道の港ということでムゼウムを造ったり、今、オーベルジュプラス何かの施設ということでにぎわいをつくったりしています。それとプラスして、先程も申し上げましたけれども、広域で観光連携をしていかななくてはいけないと思っています。

それがうまく回っていけば、たくさんの方が降りてくださいますし、また新幹線を使わなくても中京阪神から敦賀駅を見に行ってみようかなという人も来られると思いますので、そういう手当ても一部で計算しながら準備していかななくてはいけないというふうに思っています。

【記者】 ありがとうございます。

すいません。今のお話の中で、ちょっと1点だけ確認したいんですけれども、広域の観

光の連携といいますか、それはどういう形、どういう組織を使ってお考えなのか、ちょっと教えていただきたいんですけども。

【市長】 そうですね。一つは、もう既にありますけれども、嶺南広域行政組合というのがありますし、同じ仲間として若観連（若狭湾観光連盟）というのがありますので、そういうところで連携ができればと。

もう一つは、日本遺産の関係で南越前町と長浜市さんと鉄道遺産の連携をしておりますので、そういうところのつながり。

もう一つは、乗換えのところのデジタルサイネージがありますので、それは嶺南広域行政組合、嶺南6市町の映像を出していきますので、行こうという仕掛けをできたらなというふうに考えております。

いろいろと組合せをつくっていかなくちゃいけないと思っています。

【記者】 どうもありがとうございました。

【副市長】 デジタルサイネージ、横10m、縦3mメートルぐらいのを今計画しております。

【秘書広報課長補佐】 ほかよろしいでしょうか。

それでは、これもちまして4月の市長定例記者会見を終わらせていただきます。

本日はありがとうございました。

午後2時10分 終了